

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0372300244
法人名	社会福祉法人 宝寿会
事業所名	はなみずき石鳥谷
所在地	岩手県花巻市石鳥谷町上口一丁目3番地1 (電話) 0198-45-1153

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年7月23日	評価確定日	平成20年8月29日

【情報提供票より】(平成20年 7月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 1月 11日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.9人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4)利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	- 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 90 歳	最低	85 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宝陽病院、花巻市医療センター、来久保病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一母体の養護老人ホーム宝寿荘と同じ敷地の中にあり、周辺は閑静な新興住宅地である。宝寿荘からは人的、施設のまた行事的な面でも支援と交流を持っている。非常に清潔で、利用者、職員とも明るい表情で家族との信頼も深く、居住空間やそこに介在する人びとも清潔感に満ちている。グループホーム内は清潔であると共に完全バリアフリーになっている。年齢的に高齢な利用者が多く、日常生活にも制約される面も見受けられるが、職員は一人ひとりの可能な部分を活かすよう、工夫しながらさりげなく支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し職員全員が課題に真摯に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が自己評価に関わり、自分たちの解決すべき問題点を共有化の中でサービスの質の向上に資するようにしている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	推進会議の議事録から垣間見られることは、グループホーム側の報告資料が詳しく説明されていることが理解でき、委員からの質問も利用者の立場からの発言も見受けられ、内容の充実した討議になっている。この会議のあり方を更に進め、運営委員会による運営にかかわる提言が具体的な形としてなされることが期待される。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は少なくとも月1回、多い場合は数回訪れている。アンケートなどへの記入、回収率などからもホームとの信頼関係が強く、また、グループホームに対する関心の高さを感じ取ることができる。グループホーム側も職員が協力して利用者、家族にこたえる工夫と努力をしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	母体を同じくする養護老人ホーム宝寿荘、近隣保育園、小学校あるいは避難訓練時の地域民などとの交流が見られ評価できる。ただ日常の中での地域民との交流は新しい住宅地ということから難しい面もあるようだが、それを克服しながら地域の一員としてのグループホームはなみずき石鳥谷の取り組みに期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念「和と笑顔のある家」を前提に「家庭的環境と地域住民との交流のもと、健康で明るい生活を送る」支援をすることに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム玄関口や職員休息室に掲示すると共にミーティング時に唱和したりすることによって、理念の共有に努め、その具現化に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育園、小学校、盛岡の高等学校及び法人内の宝寿荘、避難訓練時の地域住民等、色々な交流がなされている。	○	今までの取り組みを高く評価しながらも、一般的な周辺地域の日常活動に参加する中でグループホームや認知症に対する地域住民の理解を得ると共に地域も含めた見守り体制を築いて行く交流のあり方に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が分担して実施し、外部評価についても、その結果を受けとめつつ、利用者に対する支援に活かす工夫をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の記録から、非常に充実した会議になっていることが分かる。委員から評価に対する質問や、会議後の利用者、委員、職員の懇談会などの取り組みは特徴的である。	○	運営推進会議では、評価に対する報告、質疑が率直になされている。そのような取り組みを更に高め、委員からの提言、意見がより多く求められるよう工夫し、また自己評価にあったH20年度に実施予定の計画についての具体化を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村合併によって、市側の担当者が代わり互いに戸惑いもあったが、現在は連携を密にし課題解決のため取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(今回の調査における)アンケートの提出状況や意見から家族との関係が良好であるように見受けられる。金銭管理、利用者の健康状態、生活ぶりなど、ほとんどの家族が月1回またはそれ以上訪れた時に直接報告している。また、月の行事予定表なども配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートや訪れていただいた時に直接意見や要望などを求めている。家族が率直に思いを出せる雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で養護老人ホーム宝寿荘と人事交流はあるが極力少なくしており、異動があったとしても、宝寿荘の職員とは日常的に交流があるので利用者から見れば異動したと言う感覚が薄いものと思われる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の計画による定期的な研修ならびにグループホーム内でもホームとしての課題研修に取り組んでおり、外部研修にも計画的に参加し、報告・閲覧によって内容の共有化に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム花北地区協議会の研修交流、所属候補の方々の職場体験研修の受け入れ、「グループホーム今が一番館」や、「グループホームだんげ胡四王」などの見学研修などに取り組んできた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	宝寿荘の短期入所を利用しながらグループホームに馴染ませて行く方法をとっており、町内の方であれば、口伝えでこの方法が理解されるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者は人生の先輩であるという意識を共有し、尊敬しながら、利用者それぞれの立場に立って支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昼食時、職員は利用者の状況・表情などから意向を把握し、さりげなく食事支援をしていた。この職員の行為を通して日常の状況をうかがい知ることが出来た。信頼関係の強さと、それによる思いや意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の希望、かかりつけ医、看護師、職員など、多様な方面からの見方をケアに反映できるよう取り組んでおり、職員全員が計画づくりに関係している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは、ケース記録によれば月1回の職員による利用者一人ひとりのケア評価、2週間ごとのかかりつけ医の所見、法人の看護師の所見及び家族等の意向を踏まえながら原則3ヶ月ごとに行なっている。ただし状態に変化を生じた時はこの限りではない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院は基本的に家族同行になっているが、家族からの要望があればグループホームで対応している。 ほかに、在宅の方の一時的(3~4時間)な利用を受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	宝寿荘との連携の中で、利用者9名中の7名の方が、宝陽病院からの医師の受診によっている。宝寿荘には1ヶ月2回、宝陽病院から医師が診察に訪れる。2名の利用者には前項で述べたような支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	4月から医療連携体制を強化しており、『利用者が重度化した場合における対応に係る指針』を定め、全利用者と家族の同意書が作成されている。それを全職員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一般的なプライバシーの保護と共に一人ひとりが持っているプライバシーの確保に努めている。特に入浴、排泄時に伴う、羞恥心には配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な生活の流れは設定しているが、利用者の要望と都合に合わせる。流れ通りにならないことが、度々あるが決して強制はしない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者への生活アンケートの中で食事の好みを把握してそれを反映させるよう努めている。食事の準備や片付けは、高齢な利用者が多いことから、可能な部分について利用者にも参加していただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日3人のローテーションで週2回平均の入浴支援をしているが、希望があればその限りではない。入浴をしない利用者には、清拭支援をする。入浴の可否判断に迷う場合は宝寿荘の看護師に判断を仰いでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できることをやって過ごしている。利用者によって塗り絵、刺し子、習字など様々である。唯一、全員が毎日のように参加しているのが、歌を歌うことである。調査員が訪れた当日も明るい歌声が聞こえていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の希望もあり、東京の孫のところに行って来た利用者もいた。毎日、近くの水田の見まわりを楽しみにしている男性利用者に対する支援もある。高齢な利用者が多く、限られてきていることは否めないが、可能な限りの外出支援はしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は無断外出の利用者はなく、日中は鍵はかけない。夜は防犯上のため鍵はかけている。玄関にはチャイムを設置し、人の出入りが確認出来るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防組織、地域消防、消防署、地域住民の有志も含め避難訓練を宝寿荘と一体で実施している。また、グループホームとしては、非常口に誘導する訓練を月1回実施している。各戸室には防災用の頭巾、職員休息室にはヘルメットが備えられていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護計画実行表によって、食事量、水分量などをチェックし、栄養士の資格をもつ介護職員による指導のもと全職員が利用者一人ひとりの状況を把握し支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が清潔で、明るく、人心を柔らかげてくれる。清掃が行き届き、季節の花もさりげない飾り方で、共用空間の中でも玄関のベンチ、ベランダ、テレビ前のソファなど一人で過ごせる場も配慮されている。段差がなくバリアフリーにも気配りされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い居室として、一人ひとりの利用者が使い慣れた物を持ち込み、自分の好みの部屋作りをしている。		